

カーボンニュートラルの実現に向けたカーボン・クレジットの
適切な活用のための環境整備に関する検討会（第4回）

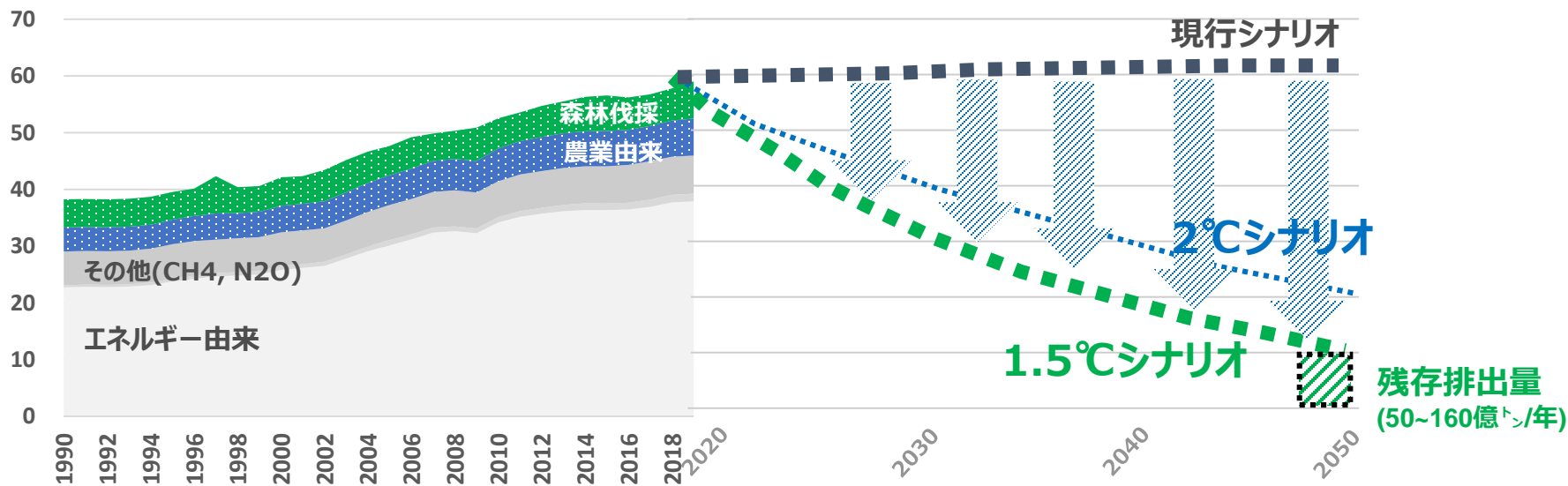
技術由来炭素除去の必要性と普及に向けた課題

2022年6月15日

三菱商事株式会社
小山 真生

- 1.5℃或いは2℃シナリオ達成には、①**全排出源由来のGHGを削減/回避 (Reduce/Avoid)** し、②それでも**残る排出量を除去 (Remove)** することが必須と位置付け。
- これには、エネルギー分野のみならず、22%の排出を占める森林/農業セクターにおいて、**森林伐採の防止等を通じてGHGを削減/回避することが必要**。
- それでも、2050年時点で**50~160億トンの排出量が残存**する。
この吸収に必要となる炭素除去の内、**技術由来が60~70%**、自然由来（植林等）が30~40%を担う。

(排出量：10億トンの年)



出典：IPCC AR6 / WG3 / SFM (C.3 / 3.3 / 3.5)

技術由来炭素除去の普及に向けた課題

- 現在の技術由来炭素除去は、供給側は「足許の価格/コストは高いが、大量購入してくれる需要家がいるのであれば、プロジェクトを立ち上げられ、将来のコストダウンに繋がられる」、需要側は「価格が安ければ大量に購入できる」、と考えており、“**鶏**”と“**卵**”の状態にある。
- かかる状況下、**Microsoft・Shopify・Stripe等の一部需要家が、足許の高い価格で技術由来の炭素除去を購入**することで、プロジェクトの立ち上げをサポートする取組を開始。
また、そういった需要家を束ねる**First Movers Coalition**も発足。
- 供給側では、民間企業・慈善団体の資金や政府機関の支援を通じてDACCS（技術由来炭素除去）等のスケールアップ・社会実装を加速するプログラム**Breakthrough Energy Catalyst**が発足。
- また、上記の動きを下支えすべく、各種制度設計の整備も行われている。

